

第22回談話会 「棚田と雪形」「棚田と水車」

日時 2011年6月11日(土)13:30~16:30 (受付 13:00より)

場所 早稲田大学文学学術院 39号館第7会議室(いちばん奥の建物の6F)

講演① 農と雪形について

講演者 酒井 英次 氏 (棚田学会会員)



新潟県生まれ。1960(昭35)年から1996(平8)年まで、(株)日立製作所でメカ設計に従事。1971(昭46)年から、絵画の修業を始める。この10年あまり「田んぼに入る絵かき」と称し、全国の棚田や雪形を取材しながら、作画に専念。個展、グループ展開催多数。2010年、過去40年にわたる画業の集大成として、酒井英次絵画集「民族の風景へ」を上梓。NPO法人棚田ネットワーク、全国棚田連絡協議会、国際雪形研究会会員

講演概要

雪形とは何か?その定義や分類から始め、雪形の父といわれる「田淵行男」、各地の代表的雪形とそれにまつわる伝承、文化的景観、雪形ウォッチング、ニュー雪形、最近の雪形研究の展開状況などを紹介する。

この講演で、農事暦と言われる雪形の実像を「私の棚田と雪形画」を通じて明らかにしたい。

講演② 水車の諸形態と分布、歴史、棚田への活用、実践的導入に向けた一試案

講演者 青山 淳二 氏 (棚田学会会員)



京都府生まれ。1980年、同志社大学文学部卒業。(財)古代学協会で京都市内の埋蔵文化財発掘調査、兵庫県立歴史博物館設立準備室での淡路人形浄瑠璃座関係資料調査に従事した後、京都市役所に奉職。文化財行政や考古資料館勤務等を経て現在に至る。京都府や滋賀県等の文化財関係調査報告書分担執筆多数。「祭礼行事 京都府(桜楓社)」、「久多(くた)の山村生活用具(京都府)」、「伏見の酒造用具(京都府)」等、編著作多数。

講演概要

演者は水車の定義を「河川、水路を利用した動力施設」と広くとらえ、その起源が中国華北(現在の河北省辺り)にあること。そこでは、「水碓(みずうす)」、「碾磑(てんがい)」等が脱穀や製粉に用いられていたこと。日本でも九州・大宰府の観音正寺に巨大な石臼があり、その本寺である東大寺の転轄門は有名。中国明末の「天工開物(てんこうかいぶつ、1637年成立)」は日本の産業技術発展に大きく寄与したこと等を歴史的背景として、現在の棚田に水車の実践的活用を考える。